

令和7(2025)年度 一般選抜A日程(令和7年2月2日実施分)「国語」出題意図

大問<sup>㊦</sup> \* 評論・論説文の読解能力を問う。(梶谷真司『考えるとはどういうことか』)

問一・問三 傍線部分の趣旨を指定の字数以内で説明する記述問題である。表現力を問うとともに、語句の文脈上の意味を踏まえながら傍線部全体の文意を正確に把握する読解力を問う。

問二 漢字力を試す問題である。二字熟語の「上の漢字」と「下の漢字」それぞれと同じ漢字が使用されている別の熟語を選択する問題であり、熟語全体としての意味を大まかに暗記しているだけでは対応が困難である。

問四 傍線部分の説明として最も適切なものを選択する問題である。傍線部分の読み取りは勿論、それぞれの選択肢の違いを吟味する緻密な読解力の有無を問う。

大問<sup>㊧</sup> \* 小説・随想文の読解能力を問う。(太田和彦『60歳からの引き算』)

問一・問六 傍線部分の趣旨を説明する記述問題である。問一は傍線部内に含まれる「掛け算」という語句と対になる言葉を傍線部外から探し出す力が試されており、ある語句の文脈上の意味を把握する力の有無を問う。

問二・問四・問五 傍線部分の説明として最も適切なものを選択する問題である。3問とも、傍線部の先頭に指示語が配されており、まずその指示内容を正確に把握することができるかどうかという基礎的な力を問う。

問三 語句の意味を問う。(1)の「お節介」は、耳にしたことがあるといった程度の語彙力では、「不要な手助けをしてしまうこと」と「本人の自己満足に過ぎないこと」の二つから正解を選びきることは困難であり、きめ細かな学習の成果を問う。

大問<sup>㊨</sup> \* 慣用句・諺・四字熟語等の意味・用法を問う。

問一 当該の意味を持つ語句または慣用句を選択する問題である。特に(3)は「相手の<sup>きげん</sup>機嫌や出方などを観察しながら行動する。」の意味を持つ慣用句として、「<sup>あしもと</sup>足下を見る」を排除しながら「鼻息をうかがう」を選択することができるかどうかを問う。

問二 諺の一部分の漢字表記を問う。(2)の「先ユウ後楽」は、諺や四字熟語について、普段から、語句や漢字の原義にもどって分析的に学習する姿勢が確立しているかどうかを問う。

問三 四字熟語のいずれか一漢字を補充する問題。四字熟語は、四つの漢字が漢文構造を維持しながら、全体として慣用句としての意味を有するものなので、日本語の語彙力の中核をなすものと言える。(3)の「コ大妄想」は、「誇」という漢字が、「ほこル」という訓以外に「大げさに言う」「実際より大きく言う」という“意味”を持っており、そうであればこそ「誇大」「誇称」「誇示」「誇張」という熟語群が存在するのだという理解に基づき「誇」という漢字の学習がなされているかどうかを問う。